

2004年8月4日 第8期 決算説明会 質疑応答

【質問】

Oracle 関連の学習コンテンツが強いようだが、例えば Cisco や他コンテンツの強化はしないのか？

回答

当社はすでに、Oracle を始め、Cisco や Microsoft といった主要ベンダーの学習コンテンツは既にシリーズ化しております。したがって今後も各ベンダー資格のバージョンアップが行われる際には、当社コンテンツもバージョンアップを図っていきます。また、IT 資格以外でも、エンジニアが必要としている分野や全社として教育されるべきコンプライアンス等まで拡充をしており、今後も学習コンテンツを増やしていきます。

【質問】

最近の SI 会社では人材投資は控えめといわれているが、今後のマーケットの見通しは？

回答

経営者側からすると、そもそもスキルが上がることの証明ができれば、人材投資はしやすいと思います。しかし、実際は投資対効果が非常に見えにくいために、経費削減の中では一律で削減されてしまいがちです。そんな中で、当社は教育投資の成果をきちんと示すべく、iES を戦略商品として掲げました。企業教育を実施して、本当に成果を上げていくのかを示すことは必要です。そのためには、まず現状のスキルの把握（診断）、学習計画の立案、スキルアップの実施が必要であり、その後にもう一度スキル診断をすることによって、はじめてスキルアップの成果を認識できます。iES はそれを実現するものです。

SI 会社の教育担当の方とお話しをすると、必ず「プロジェクトの成功のためには、人材が大事で、他社との競争に勝ち抜いていくためには人材教育が重要である」というお話を伺います。マネジメント層も教育の ROI を重視していくこととなりますので、われわれがその実現のお手伝いをしていくチャンスは広がっていくと思います。

また、人材教育の管理は人事部かもしれませんが、人材教育は会社が目指す経営方針や人材戦略の方向性に合っていなければなりません。自社がフォーカスしたい分野、テクノロジーにあった教育投資になっているかを把握していない企業が非常に多い環境下で、当社が iES を通じて人材教育の支援ができるフィールドは、今後も広がっていくと思います。

以上